

# 全国及び奈良県学力・学習状況 調査の調査結果を授業改善や生 活指導改善につなげる手立て

小柳和喜雄（奈良教育大学）

[oyanagi@nara-edu.ac.jp](mailto:oyanagi@nara-edu.ac.jp)

(2017.1.30)

# 学力学習状況調査と関わって

## ◎はじめにお尋ねします。

- 誰が分析していますか？
- どのように分析していますか？
- どのように校内で情報を共有していますか？
- 結果を改善にどのように生かしていますか？学校の研究主題とどのように関係づけていますか？
- 学校での実践で課題を明確化するのに、何を使ってどのようにしていますか？そこに学力学習状況調査は、どのように位置付いていますか？
- 上記で明確にされた課題に関わって実際に課題解決が行われたかどうかどのようにチェックしていますか？

# (例) ある自治体の場合

小学校

全国

<国語>

話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問することに課題がある。

スーパーマーケットの店長への質問の意図として適切なものを選択する設問【B1二】(51.2%)  
スーパーマーケットの店長へのインタビューメモを基にして、話の展開に沿った質問を書く設問【B1三】(50.6%)

目的や意図に応じて、グラフや表の結果を基に、自分の考えを書いたり、文章構成の効果を抑えたりすることに課題がある。

「早ね早起き」活動の課題について、図の結果を基に書く設問【B2二(1)】(51.5%)  
「早ね早起き」活動の課題に対する解決方法について、表の結果を基に書く設問【B2二(2)】(64.4%)  
「早ね早起き」活動の報告文で課題を取り上げた効果として適切なものを選択する設問【B2三】(58.5%)

目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかくことに課題がある。

「パン職人」について、紹介したい内容をまとめて書く設問【B3三】(53.2%)

目的や意図に応じて、収集した情報を関係付けながら話し合うことについては良好である。

全校集会で歌う歌を決めるために、どのように話し合っているのか、話し合いの説明として適切なものを選択する設問【A2】(79.3%)

<算数>

基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えることに依然として課題がある。

定員と乗っている人数の割合を、百分率を用いた図に表すとき、当てはまる数値の組み合わせを書く設問【A2(2)】(51.2%)

解釈が正しくないことの原因を、グラフの視覚的な変化の様子にとらわれずに、読み取ることができる情報を根拠にして説明することに課題がある。

A小学校とB小学校の図書委員が表したグラフを見比べて読み取った事柄について、正しくないわけを書く設問【B4(3)】(25.0%)

除法の式を、並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味を説明することに課題がある。

示された形をつくることのできることを説明する式の意味を、数や演算の表す内容に着目して書く設問【B5(1)】(7.0%)

乗法や除法の式の意味を解釈することに課題がある。

三つの式について、それぞれが何を計算しているかを説明している文を選択する設問【B3(1)】(62.7%)

A市 (国語)

言語についての知識・理解・技能に課題

- ・送り仮名、間違えやすい漢字に課題
- ・平仮名で表記されたものをローマ字で書くこと
- ・ローマ字で表記されたものを正しく読むこと
- ・目的や意図に応じて、書く事柄を整理すること

A市 (算数)

関数、数学的技能問題に課題

- ・直方体における面と面の位置関係を理解していること

数量関係、記述式問題に少し課題

- ・示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述できること
- ・単位量当たりの大きさを求めるために、ほかに必要な情報を判断し、特定することができること
- ・グラフから貸出冊数を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を記述できること
- ・示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述できること

# 全国

## <国語>

自分の考えを書く際に、根拠を示すことは意識されているが、根拠として取り上げる内容が適切かどうかを吟味したり、どの部分が根拠であるかが明確になるような表現上の工夫をしたりすることに、依然として課題がある。

「ちらしの表と裏の表現の工夫とその効果を書く設問【B1三】(68.4%)  
図鑑の説明を読むことで、よく分かるようになった物語の部分と、その部分についてどのようなことが分かったのかを書く設問【B3三】(58.4%)

資料を基にして自ら課題を決めてはいるが、課題の解決に向け、具体的な情報収集の方法を考えることに課題がある。

「宇宙エレベーターについて疑問に思ったことと、それを調べるために必要な本の探し方を書く設問【B2三】(49.8%)

語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことについては、一部に課題がある。

適切な語句・敬語を選択する設問  
・彼は、忙しい仕事の合間を縫って、私に会いに来てくれた 【A9三ア】(91.2%)  
・厳しい挑戦だということは、もちろん分かっています 【A9三イ】(98.0%)  
・弟子を手塩にかけて育てる 【A9三ウ】(60.0%)  
・私がプリントを集めて、先生にお届けします 【A9三エ】(94.4%)  
・会長候補として、白羽の矢が立つ【A9三オ】(64.7%)

文の成分の照応について理解することに課題がある。

「文章を書き直した意図として適切なものを選択する設問【A9五】(51.1%)

## <数学>

空間における直線と直線の位置関係を理解することについて、改善の傾向が見られる。

「三角形において、与えられた辺とねじれの位置にある辺を書く設問【A5(1)】(75.9%)

多角形の外角の和の性質を理解することについて、改善の傾向が見られる。

「多角形の外角の和について、正しい記述を選択する設問【A6(2)】(69.8%)

証明の必要性和意味を理解することに依然として課題がある。また、図形の性質について筋道を立てて証明することに課題がある。

「証明で用いられている図が考察対象の図形の代表であることについて、正しい記述を選択する設問【A8】(62.3%)  
二つの辺の長さが等しいことを、三角形の合同を利用して証明する設問【B4(1)】(30.0%)

資料を整理した表から最頻値を読み取ることに課題がある。また、資料の傾向を的確に捉えて判断し、その理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

「読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める設問【A12(1)】(46.2%)  
24.5cmの靴を最も多く買うという考えが適切ではない理由を、グラフの特徴を基に説明する設問【B5(1)】(48.1%)

# 中学校

## A市 (国語)

### 書く能力を問われる問題に課題

- ・目的に応じて資料を効果的に活用すること
- ・伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くこと
- ・文章を読み返し、文の使い方などに注意して書くこと
- ・伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くこと
- ・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

### 記述式問題に課題

- ・文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くこと
- ・課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えること
- ・本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くこと

## A市 (数学)

### 関数、数学的技能問題に課題

- ・具体的な場面で数量の関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形できること
- ・比例の関係を表す表から変化や対応の特徴を捉え、 $x$ の値に対応する $y$ の値を求めることができること
- ・一次関数のグラフから、 $x$ の変域に対応する $y$ の変域を求めることができること
- ・簡単な場合について、確率を求めること

### 数学的な見方考え方に課題

- ・条件を基に、表から数量の変化や対応の特徴を捉え、 $x$ の値に対応する $y$ の値を求めること
- ・資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること

# ある自治体の場合：学習状況調査の結果と関わって

- 小学校（児童生徒と学校質問紙から）
  - 家庭学習、学校での学び合う取組などが良い形で生きていると考えられる
  - 3点固定を推進する（起きる時間、学習を始める時間、寝る時間）
  - 家庭での余暇の時間のメリハリを付ける
  - 読書、学校図書館の利用、総合的な学習の時間での学びの指導、ICTの活用などに関わって、情報を活用する取組を推進する
  - 授業における個に応じた指導の工夫を推進する
  - 国語が好きになる取組、書く事への困難さを超えられる取組（習慣化）などを推進する
  - カリキュラムマネジメント（とくに意識的指導計画に関わって）
- 中学校
  - 家庭学習（復習）、学校での学び合い深め合う取組などを推進する
  - 3点固定を推進する（起きる時間、学習を始める時間、寝る時間）
  - 家庭での余暇の時間のメリハリを付ける
  - みんなで協力して行った達成感を感じられる取組を推進する
  - 教員が生徒を認める取組を推進する
  - 国語が好きになる取組、目的に応じた読み取り、書く事への困難さを超えられる取組（習慣化）、構成を考えた表現の取組（手法理解と結果の変化を感じさせる取組）などを推進する
  - カリキュラムマネジメント（とくに改善サイクルに関わって）

期待されている資質能力へ

知識・技能の習得

思考力・判断力・  
表現力等の育成

主体的に学習する態度

分析6

国語A

国語B

算数A

算数B

数学A

数学B

(教科に関する調査)

分析5

教員研修・  
教職員の取組

地域の人材・施設の  
活用

家庭学習 生徒の状況

学力向上に向けた取  
組・指導方法

教科の指導方法

個に応じた指導

分析3

(学校質問紙)

学習習慣

生活習慣

言語活動・  
読解力

自尊感情

総合的な学習の時間  
への関心

国語・算数(数学)への  
関心

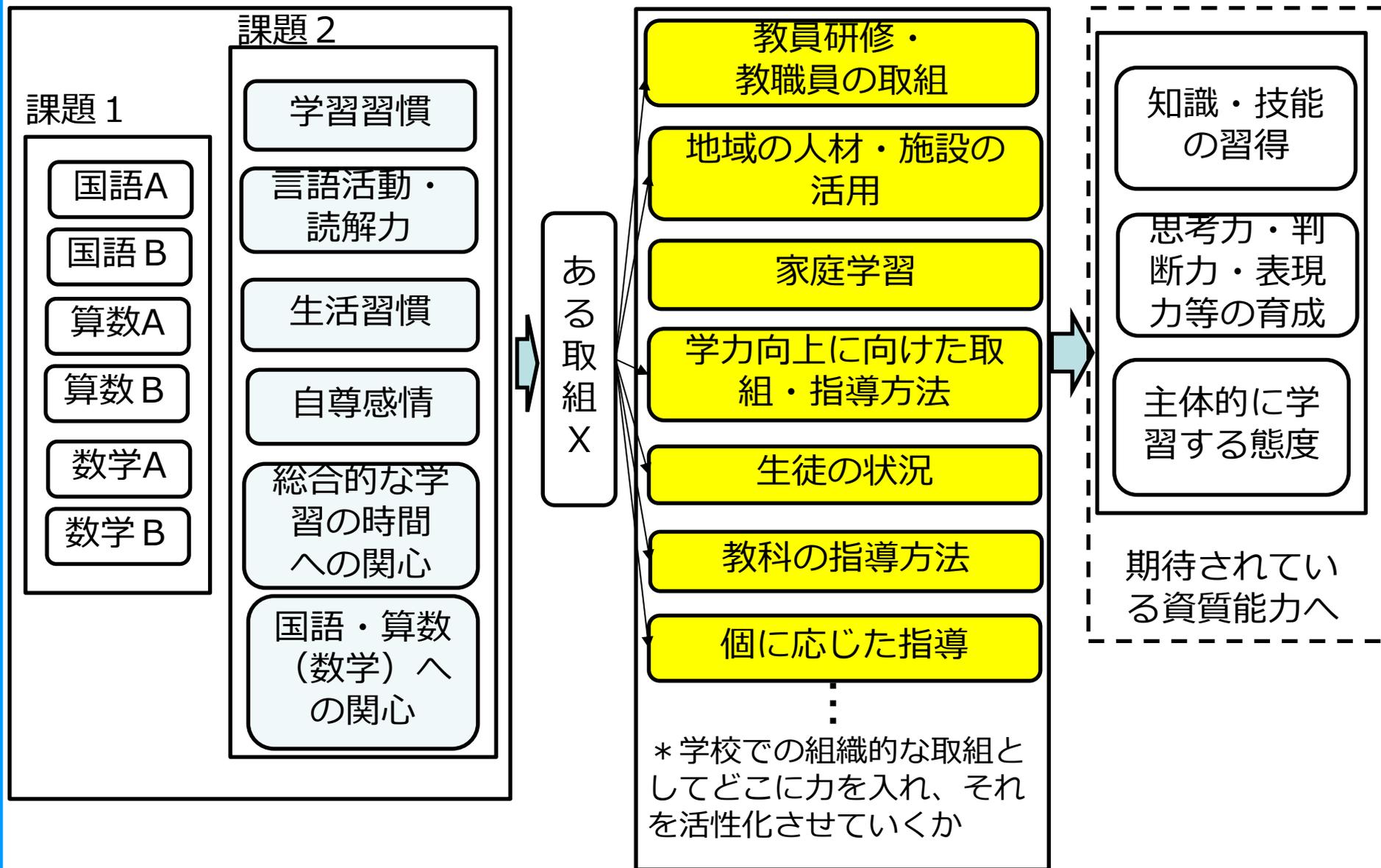
⋮

分析2

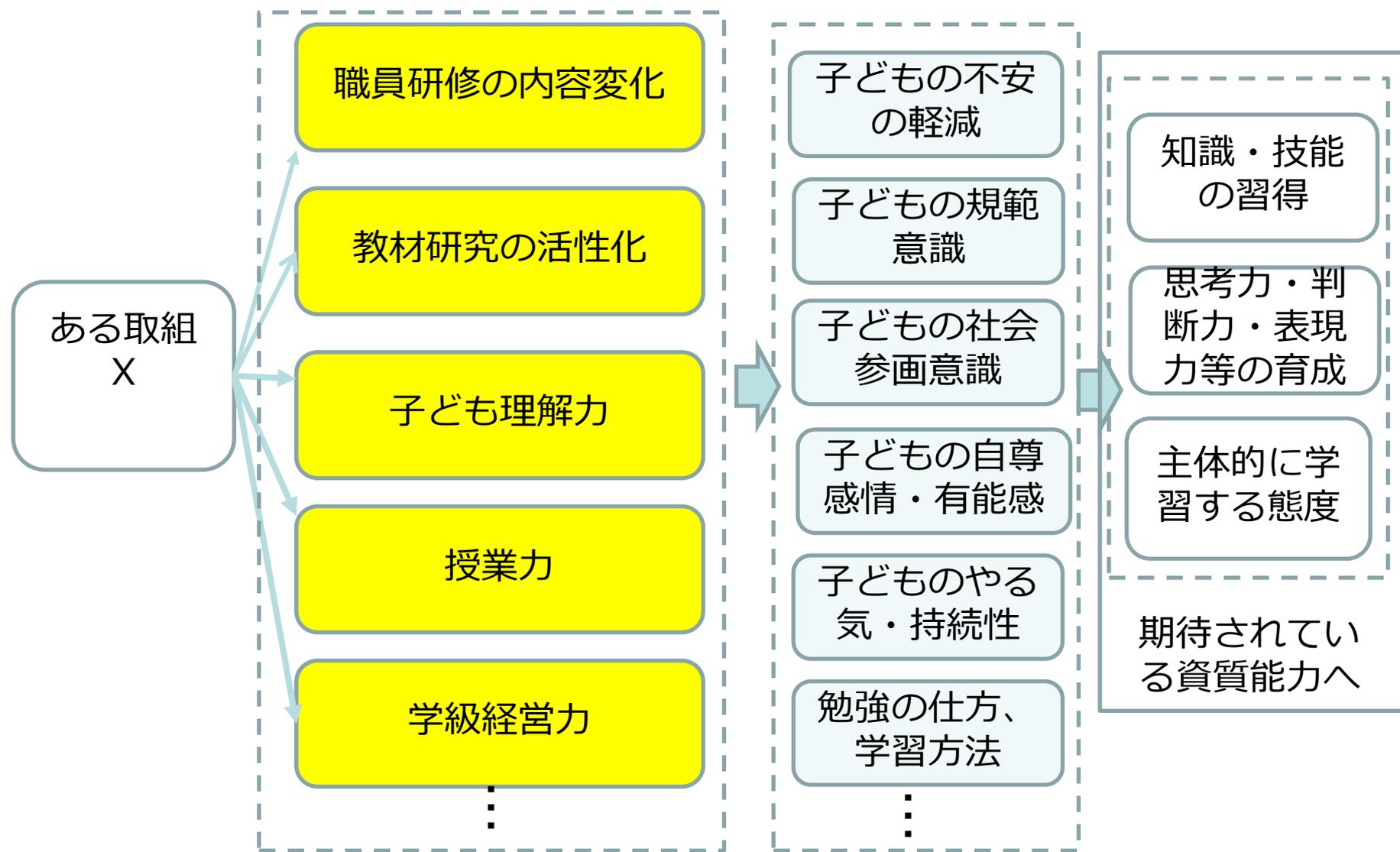
(児童生徒質問紙)

分析4

# 調査結果を用いて直接的な取組と間接的な取組の関係を見つめる



# 調査結果を用いて直接的な取組と間接的な取組関係を見つめる



○日本の財産である授業研究をあらためて見つめる

小柳和喜雄・柴田好章編著『Lesson Study(レッスンスタディ)』ミネルヴァ書房 2017年

# 学力学習状況調査の結果など，調査結果を分析し指導に生かす

生活習慣 1 遅寝・遅起きに課題  
生活習慣 2 長時間テレビ、ゲームに課題

なぜ

塾などに通う通塾の時間？

ストレス・時間がない

規範意識・時事問題へ関心が薄い

課題群

○必要な情報が使えない（意味理解）

①取り出しかたがわからない・気付かない→事実的知識を教える

②どの方法を使うかわからない→手続き的知識を教える

③正確に使えない（書けない）→手続き的知識の活用

○学校調査で課題となっていること  
発展的な内容・実生活との関連付け  
様々な文章を読ませる  
児童に最初に見通しを持たず授業スタイル

現状のよい点を活かす

家で計画を立てて勉強

話し合う時間の確保ができています

テーマを決めた校内研修がされてる

幼・小・中連携

□活用する力に課題

\* 関係思考

\* 要約力

学校組織による指導の焦点化

☆学力学習状況調査の結果分析などから課題に挑む際に、どこからどの優先順位で着手するか

（課題）家庭での予習

復習の時間の確保→自分で行う学習の時間の確保で

学習・生活の仕方の指導

○勉強の仕方

○構え・生活の仕方

□学習を行う環境・雰囲気

□自己のコントロール

家庭学習支援で

授業で

①何度も暗唱したり、書いたりして覚える	②実際にあることを行っている人やそのことに詳しい専門の人に必要なこと尋ね、聞いてくる	③取り上げられた間違いやすい課題を通じて、間違いやすい点に気付く	④学んだことを自分の経験や生活と繋げて考える	⑤少しずつ難しくなる問題にあたり、徐々に問題がすべて解けるようなる
---------------------	--	----------------------------------	------------------------	-----------------------------------

⑥書かれている内容を分析し、わかったことや見いだした意味を語る	⑦自分（たち）で解決したい課題を決め、その計画を考え、それを遂行する	⑧自分で問題を考えて作り、友達とそれらを出し合う	⑨宿題として、読んできたこと、考えてきたこと、調べてきたことを交流する	⑩既習事項で使えるような方法を、自分で選び、問題を解決する
---------------------------------	------------------------------------	--------------------------	-------------------------------------	-------------------------------

⑪問いに対していろいろな考えを出し、それを整理する	⑫出された問いと関わって、図や絵を描きながらその意味を考え、答える	⑬友達と協力して（分業や協同作業などを通じて）課題解決をする	⑭課題と関わって、記録を取り、その振り返りから気づいたこと、わかったことを表現する	⑮課題と関わって、操作や行動をしながら試行錯誤をし、考える
---------------------------	-----------------------------------	--------------------------------	---	-------------------------------

⑯出された例題を解き、その解説を聞いた後に、類題を解く	⑰出された例題について、なぜそのような答えになるか、考え説明する	⑱問いに対する答えについて、ペアやグループで話し合う
-----------------------------	----------------------------------	----------------------------

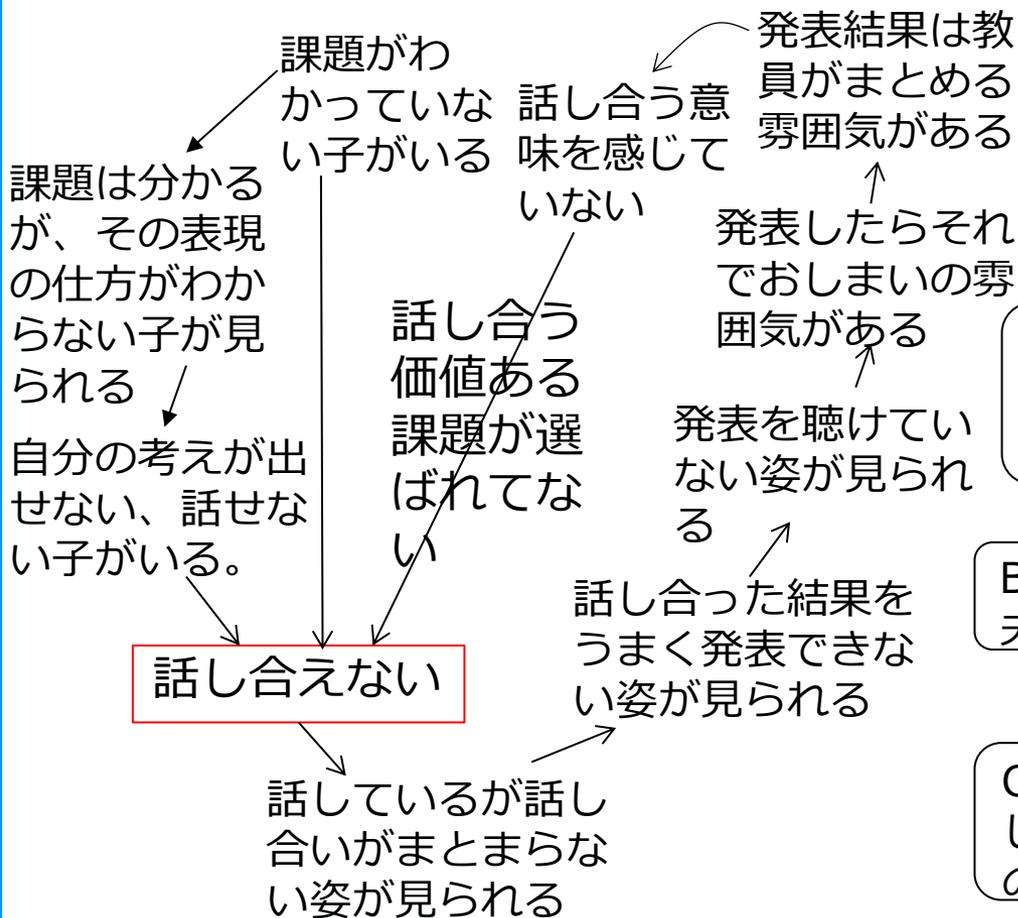
(ワーク4)

1. 日頃よく授業で行っている学習の姿のカード 右上に★を記入
2. 学校全体で（組織で）取り組んだ方がいと思われる学習活動に○

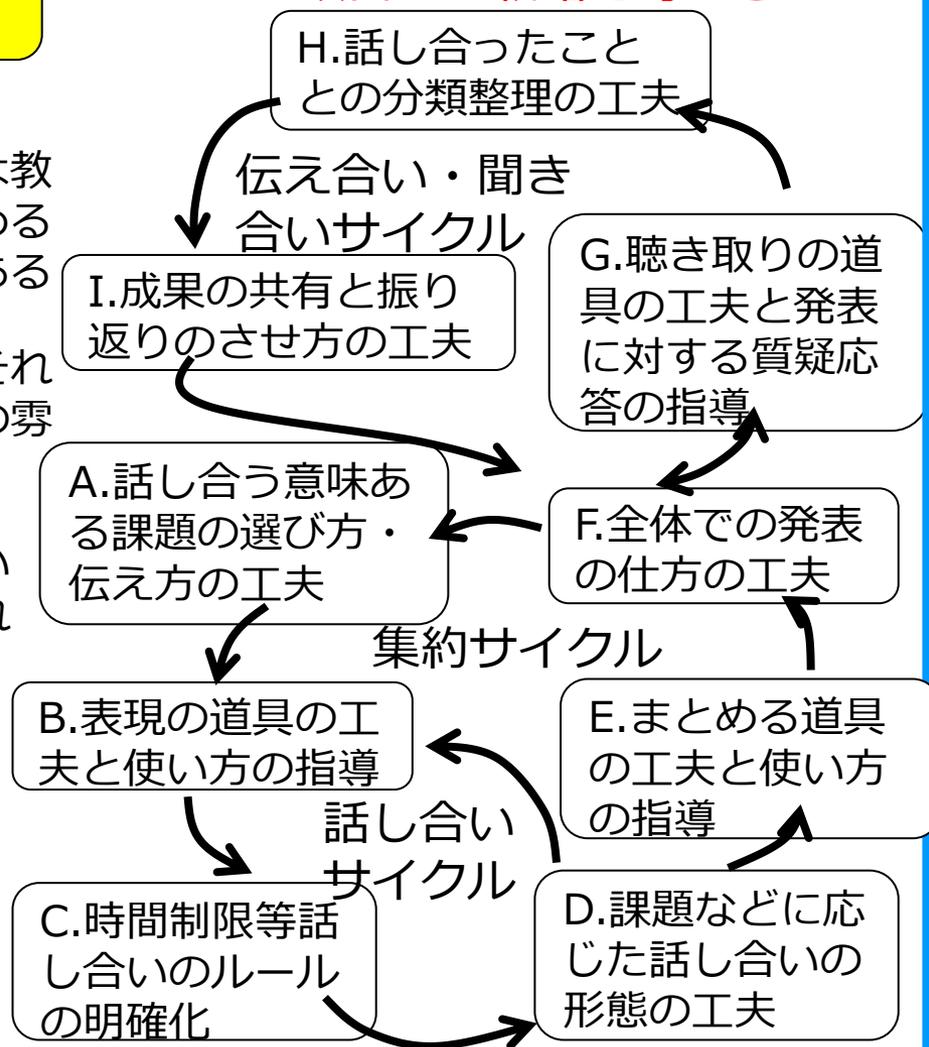
# (例) 主体的な学びと協働的な学びを成立させ、深い学びへ

課題：「子どもが話し合えない」→「考えたい、話し合いたい」へ向かうために

## 1. 遭遇した出来事から要因関係を考える



## 2. 改善への戦略を考える



# 学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる  
思考力・判断力・表現力等の育成

## 何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、  
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

**「社会に開かれた教育課程」**の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

## 何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた  
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

**学習内容の削減は行わない**※

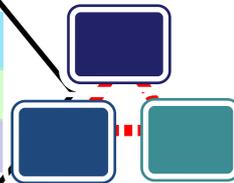
## どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得  
など、新しい時代に求められる資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

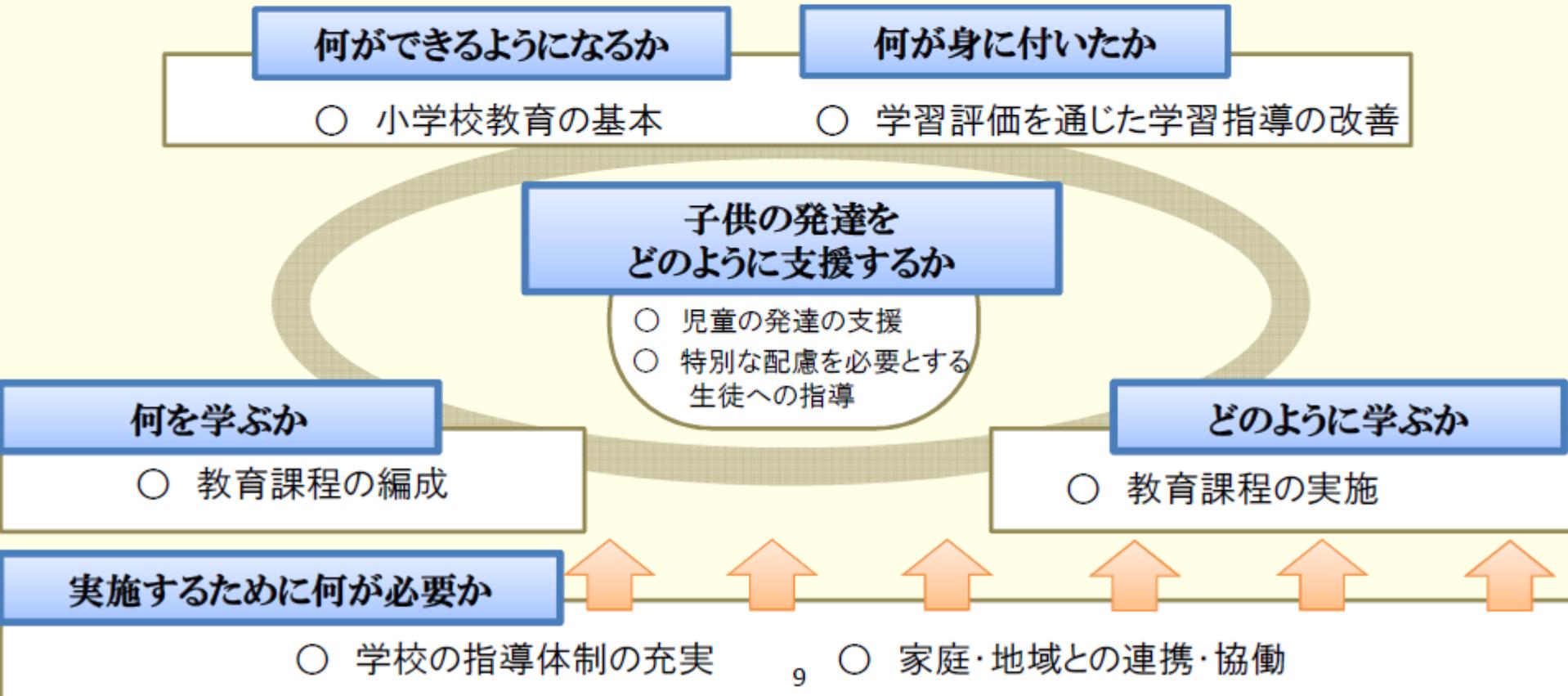
主体的な学び  
対話的な学び  
深い学び



※高校教育については、些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

# 学習指導要領総則の構造とカリキュラム・マネジメントのイメージ（案）

教育課程の構造や、新しい時代に求められる資質・能力の在り方、アクティブ・ラーニングの考え方等について、すべての教職員が校内研修や多様な研修の場を通じて理解を深めることができるよう、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の視点から学習指導要領の要であり、教育課程に関する基本原則を示す「総則」を抜本的に改善し、必要な事項を分かりやすく整理。



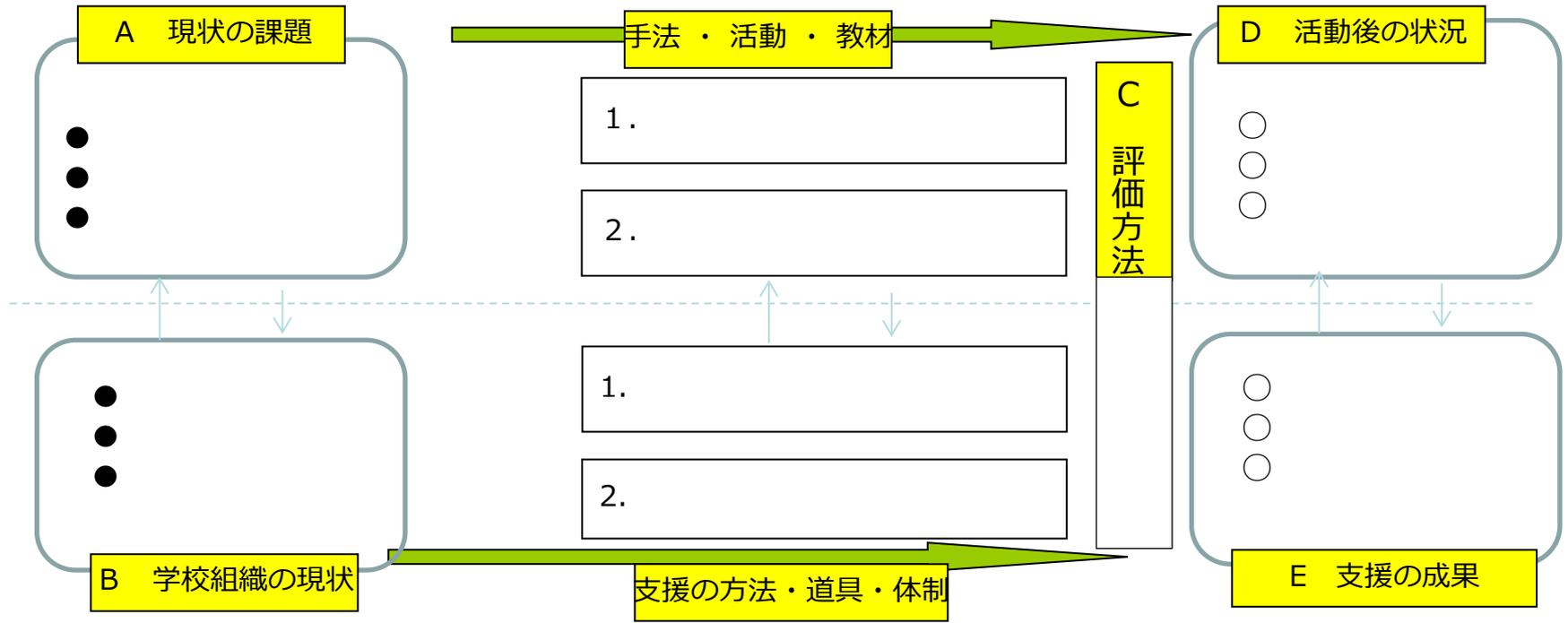
# カリキュラム・マネジメントの推進と関わって

- 「カリキュラム・マネジメント」については、これまで、教育課程の在り方を不断に見直すという側面から重視されてきているところであるが、「社会に開かれた教育課程」の実現を通じて子供たちに必要な資質・能力を育成するという新しい学習指導要領等の理念を踏まえ、これからの「カリキュラム・マネジメント」については、以下の三つの側面から捉えられる。
  - 1. 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
  - 2. 教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。
  - 3. 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。 「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」(H28.8)

# 学校研究をどのように進めていくか 組織的な取組に向けての計画を立てる

学校名：  
 研究課題：  
 目的：

昨年までの研究：  
 <成果>  
 ・  
 ・  
 ・



○レジリエントな教師、レジリエントな学校を意識する  
 C2017/1/24.グー(著);小柳和喜雄、木原俊行(監訳)『教師と学校のレジリエンス 子どもの学びを支えるチーム力』 北大路書房 2015